

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000440-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年4月1日に開設10年目を迎えました。それに伴い「介護の人と人との関わり合い」を初心に戻り見直す為、運営理念と職業倫理の再確認を取り入れている最中です。また、運営推進会議への御家族参加や行事ごとへの御家族の協力も増え、より一層入居者様への支援体制が整いました。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 10 月 9 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来10年を迎えたこのホームは、多くの優れた点が見られますが、中でも毎年行われている自己評価に対する高い意識が挙げられます。新人の職員が多い中、評価項目の内容を判りやすい設問に置き換えて、日ごろのサービスに対する振り返りの意義を指導する機会としても有効に利用しています。また、各階の3人の管理者は常に連携しユニットでの課題をホーム全体のものとして取り組む強い姿勢が見られます。決して現状に満足するのではなく、「まだ何かをしなければ・・・」と考えてます。職員は地域密着型サービスの意義を十分に理解しながら、支えあうことの大切さを深く認識し、利用者との寄り添い、そして笑いの絶えない姿が印象に残るホームです。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年一つずつ全館目標として掲げており、意識して仕事は行えています。その場その場で実践できないこともあります。	四つの運営理念を、職員間の共通認識の中で実践、反映させてきました。新人職員を含め一層の理解を深めるため毎年一つの理念を取り上げて、常に目標を新たにしながらサービスの質の向上と改善に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各職員地域住民と挨拶を交わすなど、それぞれ努力しています。前年度、前々年度と行っていた近隣公園のゴミ拾いは、本年度は行っておらずもう少しこちらからのアプローチも必要であると思います。	職員は、地域に密着したサービスのあり方を理解し、地域の一員として地域活動に積極的に参加しつつ、地域を支え、かつ支えられながら利用者の継続的な支援を行っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設管理者のキャラバンメイト養成講座を受講済みであり、講義の要請を受けた場合対応にできるようにしています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は以前よりも運営推進会議への家族参加がかなり増加し、また、意見を検討しあえる良い会議となっていると思われます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小樽市介護保険課・生活支援課と連携しながら、入居者様の日々の生活や入退所等、適宜支援しています。	市の担当者とは、これまで介護保険、生活支援に関わる様々な指導を得ながら連携を図ってきました。今後は外部評価による取り組みを開示しながら、改善の進捗状況を伝えるなど一層の連携を図ることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、内部研修や会議の場でも話し合いが行われ理解されている。外出支援もご本人の希望があった場合にはできる限り対応できるように支援しています。	近年、新人職員が増加していることから内部研修の充実を図りながら、身体拘束のないケア並びに虐待防止への徹底した実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修自体は毎年行っているが、もう少し回数を増やしても良いのではとの意見が数件職員よりあり、特に日常生活の中で言葉使いがきつくなったりといった事案については、1階フロア目標として具体的にどう対応していくか決めているので、職員同士で気をつけるように心がけています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者により各種研修会等に参加していますが、実際に適切な支援を提供できるかは疑問であり、身元引受人等の役割がかなり複雑なので今後さらに勉強する機会をもらいたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用契約書・重要事項説明書・運営規定をしっかりと話しさせて頂いています。特に退去の条件等に不安を抱えているご家族が多く、理解いただくまでゆっくり説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人からの話しはもちろん、ご家族の面会時にはなるべく意見を聞き出せるように、各職員がお話しさせて頂いています。また、運営推進会議の場でもご家族の意見をできるだけ引き出せるような検討事項を考えています。	利用者と職員間のコミュニケーションが良くできており笑い声が絶えません。職員は利用者の意見を素直に受け止めるスキルが見られます。また、家族からは訪問時や電話、運営推進会議の場で意見や提言を聞きながら、ホーム運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営者との会議を行う前に意見の抽出が出来るようにしています。直接運営者と職員が意見交換をする機会はほとんどないので、今後職員の会議参加も検討したいと思っています。	職員間のコミュニケーション、特にベテラン職員による新人職員への忌憚のない話しかけなどがよく行われています。管理者と一緒に話し合いの場に入りながら意見などの掌握に努め、事務長を交えた会議で運営に反映するよう努めています。特に3人の管理者間で共通認識を持ちながら「良いことはまずやってみよう」の強い意志を感じます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面に対して若干不満はあるようですが、現在の介護事情を職員それぞれ理解されているようで、仕方が無いと思っているとの意見が多かったです。労働時間に関しては、おおむね満足されています。給与の支払いが遅れたことがあることや、給与明細が振込日に出されない等の不満は意見としてみられました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会は充実されています。施設として計画している研修のほか、各職員が参加したい研修の希望があった場合には、随時検討し取り入れるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム協議会の相互訪問研修に2カ月に1度参加させて頂いており、全職員が他のグループホームに研修に参加しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報（フェースシート等）により入居前にご本人の状態確認を行っています。また、入居直後は積極的にご本人の状態確認が出来るような声かけやお話をさせていただき、介護記録には細かに観察状況を記入し、申し送りの際に各職員に伝わるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初はご本人が不安を抱えていますので、ご家族にできる限りの面会をお願いしています。面会の際に各職員よりご本人の日々の様子やご家族のニーズを聞き出せるように積極的に関わっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との初期の関わりからニーズを把握するように努めています。また、各職員への申し送りにより支援方法を方向付けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力を活かしたお手伝いや、レクリエーションをできるだけ大勢で行えるように支援出来ています。また、ご本人の得意なことは、その方法を職員が教えてもらいながら楽しく行えています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本年度は以前よりもご家族の行事参加が多く、職員・ご家族が入居者様を支える良い関係が増えています。今後もご家族と入居者様との外出支援等を支援していきたいです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや個別レクリエーション等で馴染みの場所に行く機会は少ないがあります。特に知人等とお会いしたり、お話しする機会は少ないため、手紙や電話等の活用により、ホームへ遊びに来ていただく機会の確保に努めています。	利用者とのコミュニケーションを図る中から、馴染みの人や場を把握しようとする努力が垣間見えます。馴染みの美容院へ行ったり家族と共にお墓参り、また、お祭り見物など馴染みの関係の継続と維持に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限り職員が間に入り、コミュニケーション・レクリエーションの機会を設けるように努力されていますが、参加に消極的な方もいますので、孤立されているときもたまに見受けられます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、次の生活の場で落ち着いて生活ができるまで、ご本人・ご家族に対し書類の説明や助言等を行っています。特に死去による契約終了後に関して戸惑うご家族も多いため、極力ホームでできることは協力できる体制を整えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人はもちろん、意思の表出が困難な方に対してはご家族からの聞き取りを行ったり、ご本人の表情の変化等を日常生活から汲み取り、支援するように努めています。	利用者の思いや意向の把握には困難を伴うこともありますが、ふれ合い、会話を通して利用者の思い等の把握に努めています。また、家族などからの情報も大切にして利用者の安心の暮らしに役立てています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の他、ご家族からの聞き取りやフェースシートの把握を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な方に対して、バイタルチェックを定期的に行っています。また、その他突発的な体調不良は、申し送り等で把握され随時検討されています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が日々の暮らしの中から生活ニーズを抽出し、適宜意見交換や支援方法の変更を行えています。介護計画更新時は居室担当の意見をできるだけ取り入れられるように、また、計画作成担当者は客観的意見を投げかけ、画一的なケアプランにならないように努力しています。	予め定められた居室担当者の日々の細やかなモニタリングから、利用者の意向が細かに記録され、職員間での話し合いから介護計画の見直しに反映されています。ケース記録などこれまで幾多の変遷と改良がされていますが、今後、介護計画と連動した記録の是非について検討を加えることとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	大まかな日々の気付き・体調不良等を申し送りに記入し、その詳細は介護記録の確認を職員それぞれが行えており、介護計画の見直しに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接しているデイサービスを利用することは無いが、デイサービスに知り合いがいる方は食材とりに出かけ、挨拶をする等の交流はしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	直接入居者様に関連してはいないが、地域消防との避難訓練・応急手当研修でご協力いただいています。また、近隣グループホーム2件と交流があり、夏祭り等相互に参加するなどしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を聞き取り、馴染みの医院がある場合は職員により受診同行をしています。希望が無い場合は、当施設協力医療機関による2週に一度の往診を受けていただき、必要な健康状態・情報の把握に努めています。	利用者によっては、複数のかかりつけ医に依頼していますが、それら受診などには家族と相談し職員が同行するなど支援が行われています。更に協力医療機関による往診で健康状態の維持支援が行われ、家族からの安心を得ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師により週3回バイタルチェックを行っています。異常があった場合は各職員に報告されています。また、その情報により受診・往診時の報告を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近年、個人情報保護の為施設職員が面会に行っても情報を教えていただけることは少なくなっていますが、各職員が入居者様のお見舞いに行っており、安心して療養に専念できるように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度、看取り1件ありました。看取り後に会議で今後にかかす話し合いを行いました。その後退所になった方もいますが、看取りは行っていません。また、方針・支援方針を検討する段階の前での死去であり、こちらの件に関しては検討に至っていません。	入居に際しては家族との間で終末期に向けた方針が説明され同意を得ています。新人職員には看取りを体験したベテラン職員の細やかな指導が視えます。ターミナルケアにあつては家族と医師とが度重なる会合を持ちながら最良の方法を見出すよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員、AED・普通救命講習を受講していますが、その頻度は現在少ないと思われます。3月に消防の方による応急処置の講習を行いました。職員のニーズとしては実際の心肺蘇生方法の実践であるとの意見があり、今後の課題であります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の避難訓練を年に2度行っています。実際の災害は起きておらず、実践したことが無いので確実に避難を誘導できるとは言えませんが、訓練として行っているので実際の現場でも生きてくると思っています。	不測の事態を想定した避難訓練が年2回開催されています。3階の避難にあつては救助袋の実技も加えるなど臨場に適応した訓練が重ねられています。各ユニットには非常時の持ち出しザック、停電の事態に対応した器具も備えられています。	災害に際しての協力要請は、運営推進会議などで行われていますが、訓練には参加されていません。災害時では住民のご協力は不可欠であり、臨場での住民の方々の役割、ポジションなどマニュアルに明記の上、支援要請の取り組みを期待します
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の1階のフロア目標として、「介助の際は人と人との関わりであることをしっかりと認識し、丁寧に行いましょう」と具体的に掲げ、前年度よりも各職員が意識して仕事に取り組んでいます。	利用者との暮らしの中で、利用者それぞれの個性の尊重がホーム全体に浸透されている様子が視えます。職員は日常の暮らしの支援で一人ひとりの人格の尊重、またプライバシーの確保にごく自然な対応が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活やレクリエーションの中で、なるべくご本人の意見を聞けるように各職員が声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によってレクリエーションや散歩等を行う場合に、ご本人に希望をお聞きし支援しています。入浴に関しては、2～3日に一度入れるようにしていますので、こちらの都合で決めてしまっています。どうしても入りたくないとの訴えがあった場合に		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り汚れた服装でいないように、また、髪の毛の乱れ等ないように気をつけていますが、目ヤニや口周辺の汚れ等気になることがあります。食後の整容や口腔ケアの際に、業務優先にならずにゆっくりと確認しながらの支援を心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理や盛り付けをできる方にはお願いしています。また、日曜日のおやつ作成レクリエーションの際には、時間がかかっても全員が参加できるように配慮しています。	調理は専門の職員によって行われていますが、下拵え、盛り付けなど可能な利用者の手助けを得ています。食事は利用者の状況に合わせて調理され、職員も交えた会話が食事を一層楽しい雰囲気としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方に対しては、食事・水分量チェックを行っています。その際、極端に量が少ない方に対しては、水分やゼリー・おやつ等の提供を行い、補うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後にご本人にできる限り行ってもらいながら支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の能力に応じて、なるべくトイレで排泄できるように支援しています。	自尊心、プライバシーに配慮しながら、利用者に合った優しい声かけによりトイレでの自立排泄を促しています。時には失敗もありますがさりげなく処理し、また、排泄チェック表の活用で日々の自立した排泄の継続が見られるなど支援の効果を高めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等により短い日数での排泄を心がけています。また、食べ物に関しても、牛乳やプルーン・果物をできる限り摂取できるようにおやつに工夫を取り入れています。運動に関してはあまり行っておらず、今後の課題です。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めています。その中で、入浴の声かけをさせていただき、どうしても入りたくない方に関しては、後日入浴できるようにしています。	利用者の希望通りの入浴とはいかないまでも、週2回の入浴を支援しています。体調の都合で入浴ができない場合もありますが日を変えするなどして、入浴による清潔かつリフレッシュの効果に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの体力・年齢に合わせて休憩できるように支援・配慮を行っています。また、昼夜逆転の予防として日中起きていただいているときは、活発な生活となるようにレクリエーションや散歩等を行えるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分の薬の目的・副作用は理解できていません。居室担当者の分は理解されています。新しい薬剤が投与された場合は、全職員が状態の変化に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやお手伝いを行う際に、得意分野がある方には積極的に参加していただくように支援しています。また、ホーム周辺の散歩を心がけていますが、天候のせいもあり、今年度は前年度よりも少ないように思われます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの年間行事や理美容・病院の受診・年中行事の外出で外出するくらいで、あとはホーム周辺の散歩位です。日常的に買い物に付き添っていただく等も今後検討し、支援していきたいです。	ホーム周辺の散歩は、利用者の状況や希望により行っていますが、ホーム付近は坂道が多いため長い時間になると支障をきたしてしまいます。職員はドライブや外食などを効果的に取り入れてストレスの解消に努めています。各ユニットでは外出をもっと増やそうと検討中であり成果が期待されます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している入居者様は何人かいますが、それをご自分で使うことは全くないです。必要物品はご家族か職員が代行で買いに行くといった状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、ご本人の希望があった際や、遠方のご家族に1カ月に1度電話連絡をする支援を行っています。手紙の支援は全く行っていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在レクリエーション担当により、季節感を重視した飾りつけを入居者の方と一緒に作成し、飾りつけを行っています。また、トイレには大きく張り紙をし、新規入居者様に関しては、お部屋に大きく名前を書かせて頂き、ご自分の部屋だと分かるようにしています。	各ユニット共、明るい窓際の大きなソファが利用者の寛ぎの場となっています。居間及び食堂は外陽のほか落ち着いた照明が居心地の良い空間を作っています。各階を結ぶ階段は、踏めんが広く、また、蹴り上げが低いため利用者の昇降には適しており足腰の運動に適しています。職員はより快適な空間作りに配慮し、清掃、温度及び湿度の管理に力を入れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おおむねTV前ソファでくつろぐ方と、食卓テーブルで過ごされる方と、居室で過ごされる方とおり、それぞれご自分の居場所を確保されているようです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホーム入所時に、ご自宅で使用していた物をなるべく持ってきていただけるように、ご家族にお話しています。配置に関してもご本人が安心・安全に生活できるように適宜検討し工夫しています。	利用者によって多少の差はありますが、それぞれの居室を飾る調度品が整然と並び、落ち着いた空間となっています。植物の鉢が彩りよく、また仏壇が置かれるなど利用者にとって安心かつ居心地の良い居室となっています。ポータブルトイレの設えている居室もありますが、昼間の置き場所など改良を加えることとしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLに関しては、できるだけご自分の力を発揮できるように、自助具や歩行補助具等を使用していたいでいます。		